

実践報告⑧②

今津病院における 医療ソーシャルワーカーの役割

一般財団法人近江愛隣園 今津病院
地域連携室 竹本正樹

1. 病院の概要

昭和26年に日本キリスト教団今津教会と地元有志が疲弊した農村の農繁期にあって足手まといにされ放置されている乳児の適切な保育体制と当時の国民病といわれた結核患者の早期治療が急務との使命感の元「財団法人近江愛隣園」を設立し「愛隣保育園」と「今津病院」の事業活動がはじめられました。平成25年4月には公益法人制度改革により「一般財団法人近江愛隣園」へと移行し現在に至ります。

今津病院は琵琶湖の西部滋賀県高島市にあり、主に回復期機能、慢性期機能を担う病院として障害者病床22床、地域包括ケア病床18床、回復期リハビリテーション病棟40床、血液透析センター30床を運営しております。その他に、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション、あいりん訪問看護ステーション、あいりん居宅介護支援事業所、あいりんつむぎ地域包括支援センター、あいりん運動教室といった在宅療養・在宅介護支援部門も充実しており病院と連携を図りながら地域住民の健康生活を支えています。

法人の理念「隣人愛」のごとく、自らを愛するように隣人を愛し、隣人に尽くすことに誇りを持ち、職員一丸となり地域のみなさんに最適な保健・医療・福祉・介護を提供しております。



2. 病院内における地域連携室の位置づけと役割

医療ソーシャルワーカーは地域連携室に所属しており社会福祉士3名（うち1名は看護師）と入退院支援看護師1名の計4名で活動しており患者・家族への相談支援や地域連携業務を担っております。



3. 地域連携室への相談の特徴

相談の多くは急性期病院から各病棟への転院相談や在宅等への退院支援といった入退院支援に関する相談です。患者様のこれまでの生活歴や退院に向けての思い、家族様の思いに耳を傾け他職種と連携しながら患者様中心の医療・介護が提供できるように努めております。また、希望される退院先に安心して退院できるように関係機関との連携を密に行い患者様・家族様だけでなく関係機関も安心して支援ができるように日々努力しております。

また、高島市は高齢化率が38.1%と滋賀県内で最も高く独居高齢者、高齢夫婦世帯、身寄りのない高齢者も増えております。そのような中で地域包括支援センター等の支援機関からの相談も増加傾向で、例えば体調が安定しないが通院するための足がないため通院が途絶えている、体調が不安定で受診が必要だが多重債務等で診察費が払えないため受診が滞っている、生活困窮であり働いて収入を得たいが体調が安定しないことから就労できないので無料低額診療事業を活用して体調を整えて就労につなげたいといった外来患者の受療相談も増えてきています。



4. 地域連携室の取り組み

当院が福祉医療施設であり無料低額診療事業を実施していることを地域に啓発していくことが必要であることから昨年度高島市社会福祉課くらし連携支援室、高島市の自立相談支援機関である「つながり応援センターよろず」、当院がある今津地域を管轄する「あいりんつむぎ地域包括支援センター」に対し当院の無料低額診療事業を紹介し対象者がおられたらご紹介いただけるように依頼しました。また、この紹介をきっかけに、高島市役所社会福祉課くらし連携支援室より今津地域にある社会資源の1つとして「今津地域くらし連携会議」への参画の依頼がありそこでも無料低額診療事業について紹介し会議参加者が関わっているケースで様々な理由で医療につながっていない地域の患者様をご紹介いただけるよう説明しました。その結果今年度までに3名の患者様の紹介をいただき診療費と院内処方による薬剤費の減免をしながら治療を受けていただき体調の安定が図れてきているので関係機関と連携しながら世帯の生計立て直しや就労といった個別の課題解決に向けて支援をいたしております。現状課題の解決までには至っておりませんが解決に向けて時間をかけて支援を行っていきたいと考えております。

また、受療力の低い地域住民に対する支援として無料低額診療事業の活用のほか、通院時の無料送迎サービスや訪問診療を行ったり、地域住民の健康増進・介護予防として健康生活を支える研修会や地域のイベント、近隣地域のサロンにて健康相談や健康体操を行うことで地域住民の健康生活を支え、維持できるように支援しております。

さらに早期の転院受け入れや紹介元の病院から当院への転院搬送時のコロナ接触感染予防を目的に、2022年より転院搬送時の無料送迎サービスを開始し地域連携室の看護師が同乗し紹介元の病院までお迎えに行き安心・安全に転院搬送ができるように努めております。このサービスは患者様・家族様だけではなく紹介元の病院からも大変好評をいただいております。コロナが5類に移行後も継続して運用いたしております。



5. おわりに

2025年問題により都市部においても独居・身寄りなしなど社会的孤立の課題が増えてきていますが高島市においては10年近く前にすでに2025年問題が訪れておりこのような問題への取り組みは先行してできているのではないかと感じております。今後はその強みを生かして社会的に孤立されている患者様を今以上に積極的に受け入れて福祉医療施設としての使命を果たせるように努力していきたいと思っております。

